

2025年度からの 生涯学習制度について

2025年9月1日

埼玉県作業療法士会 教育部

鈴木香織

生涯学修制度について

日本作業療法士協会 HPリンク

日本作業療法士協会 生涯学修制度について

作業療法士が活躍する臨床現場の領域の広がりと同時に、
作業療法士の質の担保の必要性が生じてきました。
また、作業療法士の働き方やライフスタイルも多様化しています。

会員がより参画しやすい制度となるべく、卒前と卒後の教育
および学修の連続性を考慮した仕組みを構築した、新たな
生涯学修制度が2025年4月より開始します。

作業療法士国家資格取得

登録作業療法士

Association Registered
Occupational Therapist

前期研修
(概ね2年間)

講義
(eラーニング)

実地経験
(職場における実践)

MTDLP基礎研修

後期研修
(概ね3年間)

講義, 演習

実地経験
(職場における実践)

厚生労働省指定
臨床実習指導者講習会

認定作業療法士

Association Certified
Occupational Therapist

共通研修

管理運営

研究法

選択研修

身体障害

老年期障害

精神障害

発達障害

臨床能力実績の証明

専門作業療法士

Specialist Occupational
Therapist

研修実践

基礎

応用

研究・開発

臨床実践

研究実践

教育と社会貢献の実践

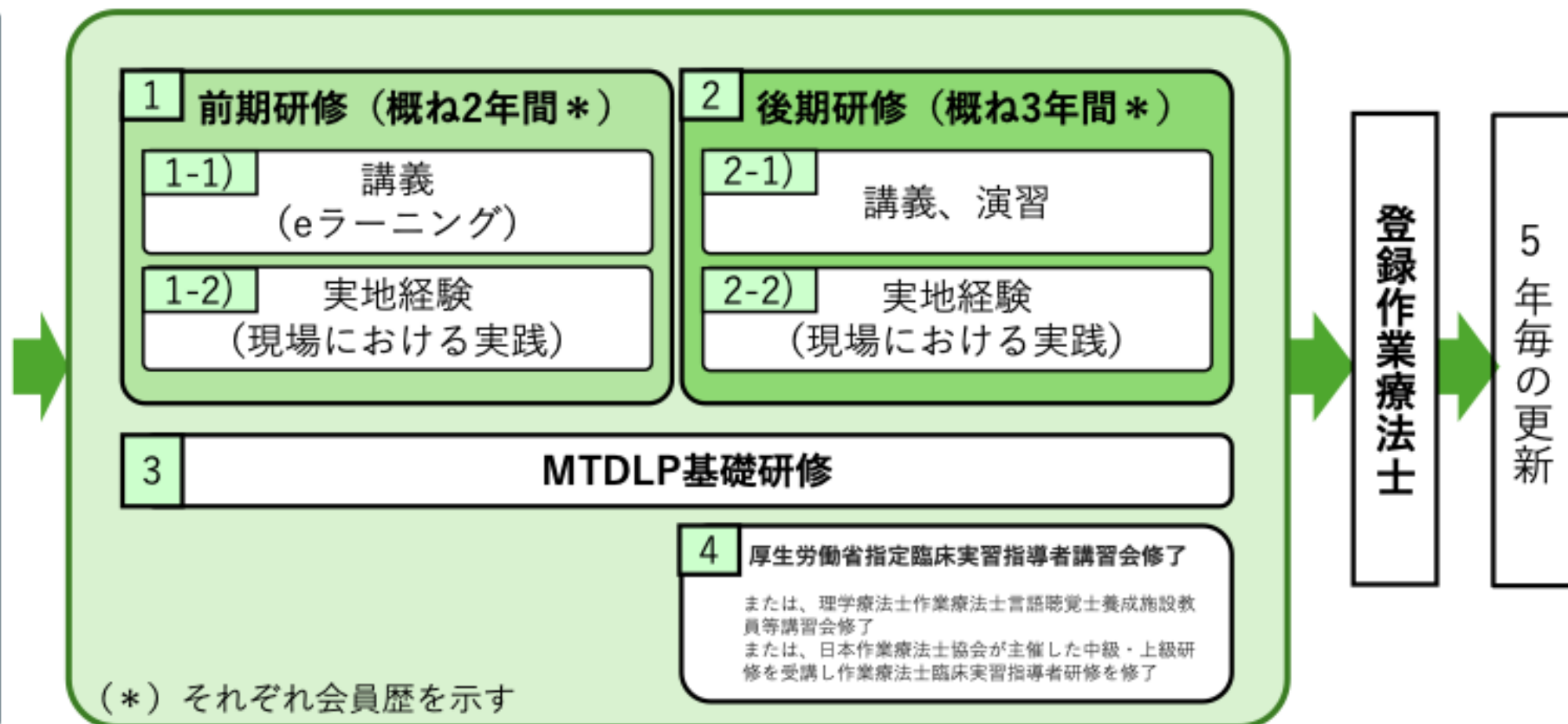
臨床能力実績

専門作業療法士の各分野が指定する要件の取得

取得と更新

登録作業療法士制度 概要

日本作業療法士協会、各都道府県士会へ入会



* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう

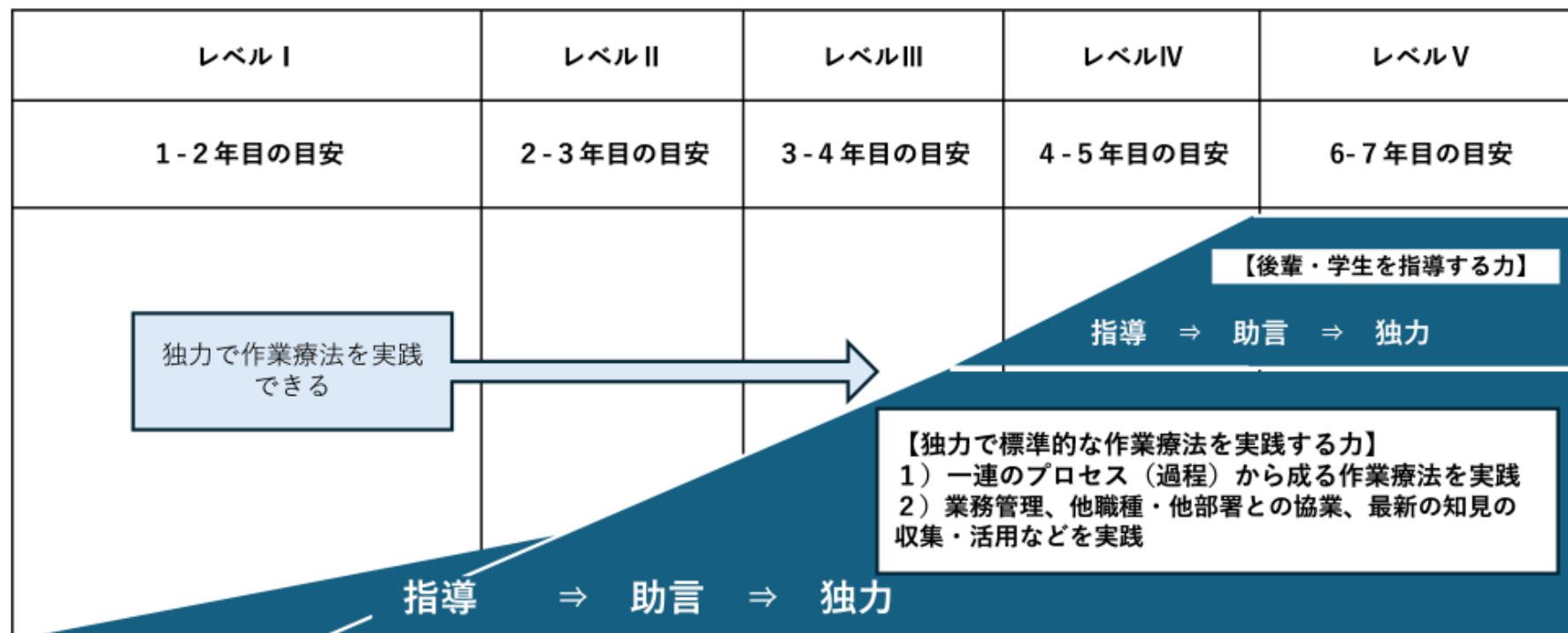
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

前期研修
到達レベル

後期研修
到達レベル

登録作業療法士

作業療法の核となる 4つの実践能力	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
	1-2年目の目安	2-3年目の目安	3-4年目の目安	4-5年目の目安	6-7年目の目安
	□基本的な作業療法プロセスに従い必要な指導のもと作業療法を実践することができる	□標準的な作業療法プロセスに従い必要な（最小限の指導）助言のもと作業療法を実践することができる	□標準的な作業療法プロセスに従い独力で作業療法を実践することができる	□標準的な作業療法プロセスに従い独力で作業療法を実践ことができ、上級者の助言・指導を得て後輩の指導ができる	□標準的な作業療法プロセスに従い独力で作業療法を実践ことができ、後輩への指導とともに学生の指導ができる



			1. 前期研修		2. 後期研修		
			OT協会員歴 1年目	OT協会員歴 2年目	OT協会員歴 3年目	OT協会員歴 4年目	OT協会員歴 5年目
			前期研修 1年目	前期研修 2年目	後期研修 1年目	後期研修 2年目	後期研修 3年目
講義			1 - 1）講義（eラーニング）				
講義・演習					2 - 1）（新）現職者共通研修、（新）現職者選択研修		
			1 - 2）		2 - 2）		
実地経験	ア	自施「内」 実地経験					
	イ*	自施設「外」 研鑽経験	研鑽対象の学会・研修会と回数に必須要件あり				
*：基礎研修ポイント対象の学会・研修会などへの参加							
3. MTDLP 基礎研修							
4. 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会 または 理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会							

*：基礎研修ポイント対象の学会・研修会などへの参加

図2 研修中 OT が登録 OT を目指す標準的 行程

生涯学修制度 前期研修
eラーニング講座
70コンテンツ

A 領域 作業療法士基礎力 ～臨床実践のための基礎知識～		B 領域 作業療法分野横断的基礎力 ～臨床実践のための共通知識～	
	テーマ		テーマ
1	職業倫理①【法律、社会全体に関する内容】	1	一次救命処置①【基礎】
2	職業倫理②【作業療法領域での倫理】	2	一次救命処置②【手技】
3	職業倫理③【臨床、実習指導での対応】	3	クリニカルリーズニング①【基礎】
4	協会組織【作業療法定義・対象・目的】	4	クリニカルリーズニング②【面接の活用】
5	作業療法の動向①【世界から見た日本の動向と現状】	5	クリニカルリーズニング③【活動分析の活用】
6	作業療法の動向②【世界の動向と現状】	6	クリニカルリーズニング④【統合と解釈】
7	作業療法の動向③【国際交流、国際協力】	7	クリニカルリーズニング⑤【効果判定】
8	作業療法における協業①【対象者、家族】	8	作業療法研究①【作業療法実践とエビデンス】
9	作業療法における協業②【多職種連携】	9	作業療法研究②【臨床研究概論】
10	作業療法における協業③【災害時の対応、平時の取り組み】	10	作業療法研究③【研究結果のみかた】
11	マネジメント【リーダーシップとセルフマネジメント】	11	作業療法研究④【医療統計】
12	介護保険制度【概論】	12	作業療法研究⑤【学会発表・論文発表】
13	医療保険制度【概論】	13	作業療法研究⑥【事例報告】
14	障害者総合支援制度【概論】	14	リスクマネジメント①【感染予防・対策】
15	地域包括ケアシステム【概論】	15	リスクマネジメント②【暴力リスクアセスメント】
16	作業療法実践に関する記録・報告【概論】	16	保健・医療・福祉と地域支援①【地域包括ケアシステム】
17	作業療法生涯学修概論①【OT協会、都道府県士会】	17	保健・医療・福祉と地域支援②【共助、互助】
18	作業療法生涯学修概論②【生涯学修制度】	18	保健・医療・福祉と地域支援③【特別支援、総合支援法】
19	作業療法士の働き方・展開①【キャリア形成】	19	MTDLP基礎【概論】
20	作業療法士の働き方・展開②【ワークライフバランス】	20	MTDLP基礎【活用】

C領域 作業療法分野特異的専門力 ～臨床実践のための専門知識～	
	テーマ
1	身体障害 脳血管障害①【急性期】
2	身体障害 脳血管障害②【回復期】
3	身体障害 脳血管障害③【生活期（維持期）】
4	身体障害【がん】
5	身体障害 整形疾患①【骨折、骨折関連】
6	身体障害 整形疾患②【脊損】
7	身体障害【内部障害】
8	身体障害【難病】
9	精神障害 統合失調症①【急性期】
10	精神障害 統合失調症②【回復期～生活期（維持期）】
11	精神障害【気分障害】
12	精神障害【依存症】
13	発達障害【脳性麻痺】
14	発達障害【重症心身障害】
15	発達障害【神経筋疾患】
16	発達障害 神経発達症①【基礎】
17	発達障害 神経発達症②【作業療法実践】
18	老年期障害【廃用症候群】
19	老年期障害 認知症①【基礎】
20	老年期障害 認知症②【作業療法実践】

21	老年期障害【介護予防】
22	老年期障害【地域リハビリテーション】
23	司法領域の作業療法【概論】
24	義肢装具【種類、目的、適応、制度】
25	福祉用具①【シーティング、ポジショニング】
26	福祉用具②【各種用具、自助具】
27	自動車運転と地域移動支援【再開に向けた取組み】
28	就労支援【復職の流れ、各種サービス】
29	住宅改修【概論】
30	高次脳機能障害【概論】

前期研修eラーニング講座一覧

生涯学修制度 前期研修 実地経験

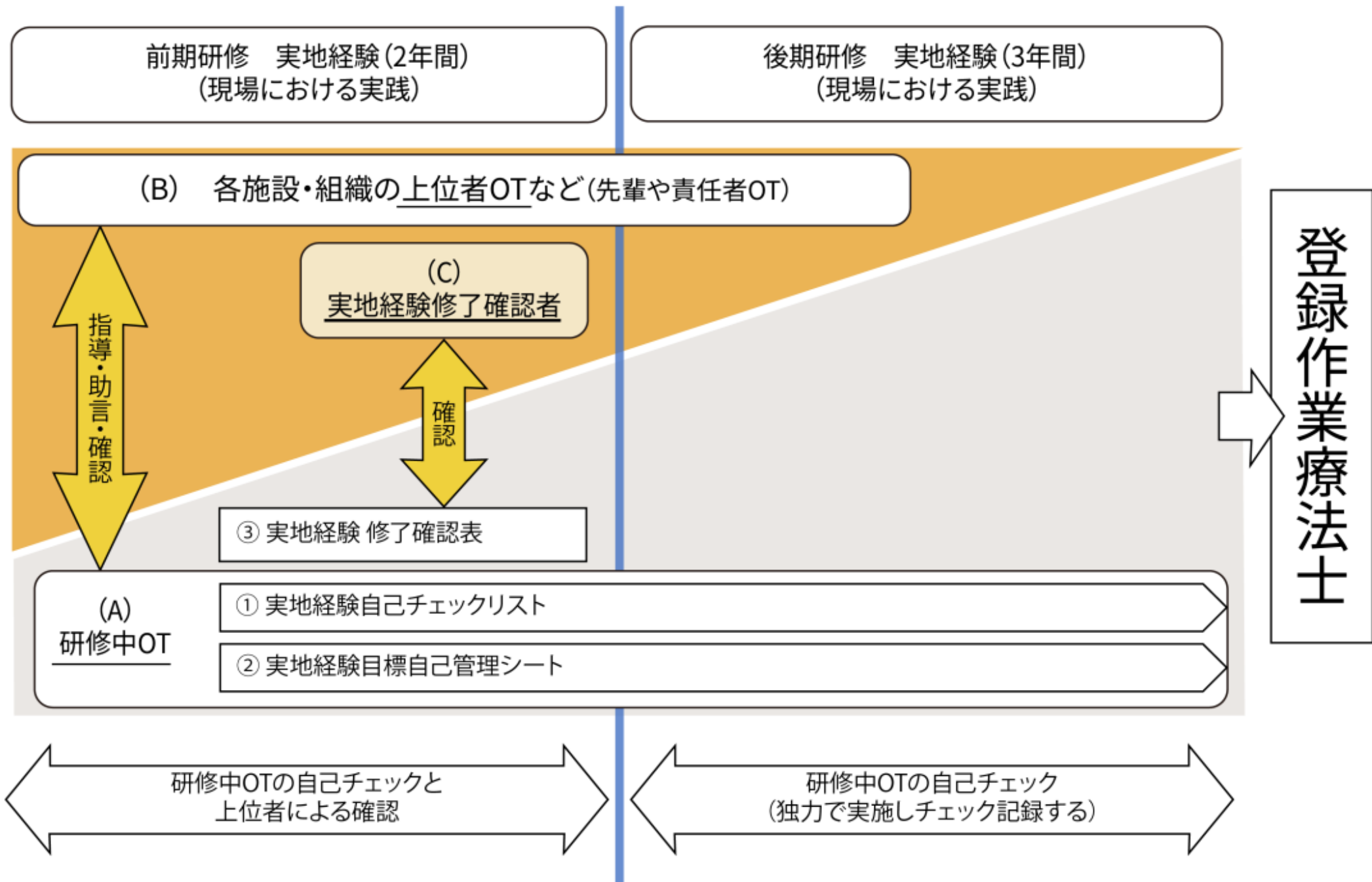
登録作業療法士制度における実地経験とは

現場における作業療法士としての経験そのものを指します。

自施設内での研修、日々の実務における上位者OT(管理者や先輩OTなど)からの指導や助言および主体的な見学や学習をふまえた実践の経験、臨床推論や成果・結果を吟味する経験、カンファレンスなどでの情報伝達の経験、さらには、自施設外で開催される研修などでの研鑽経験も含みます。

実地経験を導入する目的

- 1) 前期研修、後期研修を遂行中の研修中OTが、
各施設・組織内および自施設外で、主体的に必要な指導・助言・
確認を受けつつ研鑽し、計画的、段階的に標準的な実践能力を
修得すること
- 2) 研修中のOTが属する施設・組織における学修（指導・助言）体制
導入を促進すること



実地経験チェックリスト

[実地経験自己チェックリスト1 ダウンロード
\(Excel\)](#)

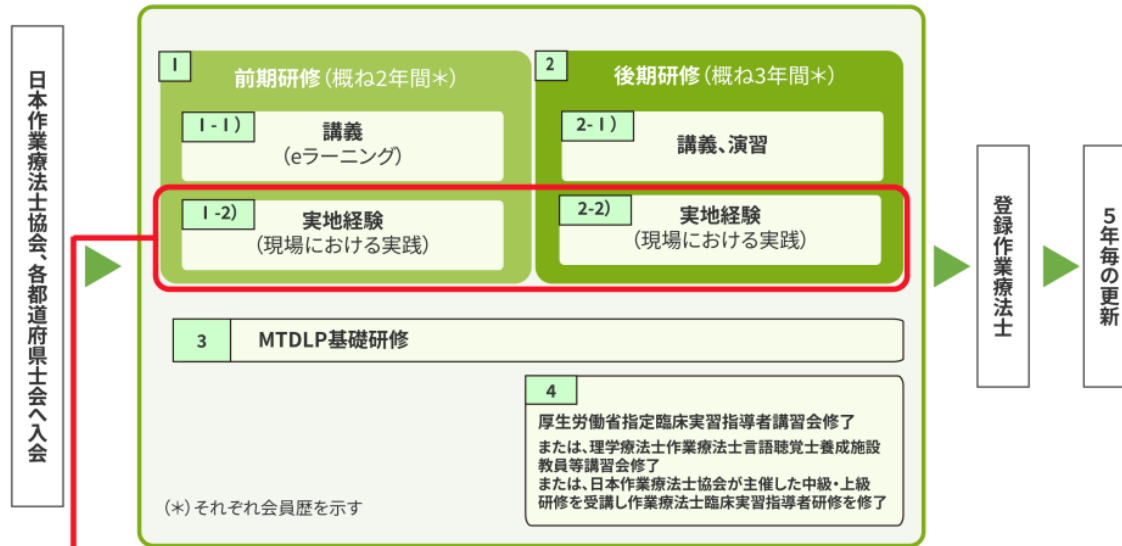
[実地経験自己チェックリスト2 ダウンロード
\(Excel\)](#)

OT協会版の実地経験チェックリスト①・②があるが、自施設にこれに該当するものがある場合は、自施設版のツールを使用可能。

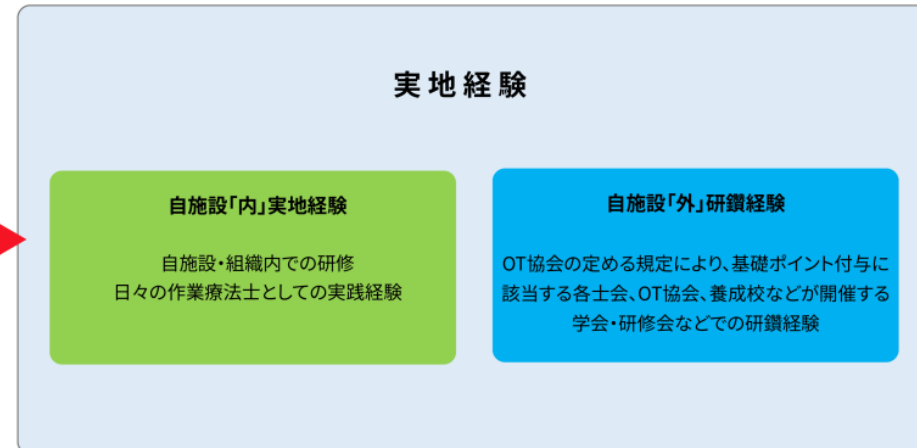
実地経験自己チェックリスト (Ver.1)
2024作業療法ガイドラインに準拠

OT協会 会員番号 ()			所属する都道府県士会名 ()	氏 名 ()			
ラダー4つの力	大項目	中項目	小項目	必要な指導のもとでできる	助言のちでできる	独力でできる	助言・指導を得て後輩に指導できる
生活行為を達成するために協働する力 生活行為の向上に向けてセブピーも力	1. 作業療法の実践（作業療法の質を担保するために）						
	1) 管理運営						
	一般的リスク管理		バイタルサインの確認をする				
			全身状態の確認をする				
			意識・アウェアネス（場所、時間、周囲の状況自身に対する気づき）の確認をする				
			衛生・感染管理をする				
			治療処置管理をする				
			褥瘡予防、良肢位保持をする				
			動作介助時の安全の確保をする				
			発用症候群予防をする				
			設備・物品などの環境の保守管理をする				
生活行為を達成するために協働する力	記録の作成		一次救命救急処置をする				
			評価について記録する				
			介入の実施について記録する				
	組織マネジメント		その他の記録する				
			所属する職場の職員としての職場ルールを遵守する				
			所属する職場の社会的役割を説明する				
			所属する職場の構成員としての役割を理解し、作業療法部の円滑な業務運営に努める				
			所属する職場の構成員としての役割を理解し、多職種・他機関との円滑な業務運営に努める				
			所属する職場内で適宜、報告・連絡・相談をする				
			休暇・時間外勤務・出張等の手続きを適切にする				
			管理者に業務上の報告・連絡・相談を適切にする				
			施設・組織の安全管理マニュアルを理解する				
	職業倫理		部門の設備・備品の保守管理をする				
			医療倫理に基づき、人間の尊厳を尊重して行動する				
			作業療法倫理綱領や職業倫理指針を遵守する				
			ハラスメントに関する知識を持ち行動する				
			医療法、理学療法士及び作業療法士法に基づいて、職場業務ガイドラインに沿って実践を行うことを理解する				
			個人情報保護について理解する				
			業務上知り得た個人情報の守秘義務を遵守する				

登録作業療法士制度 概要

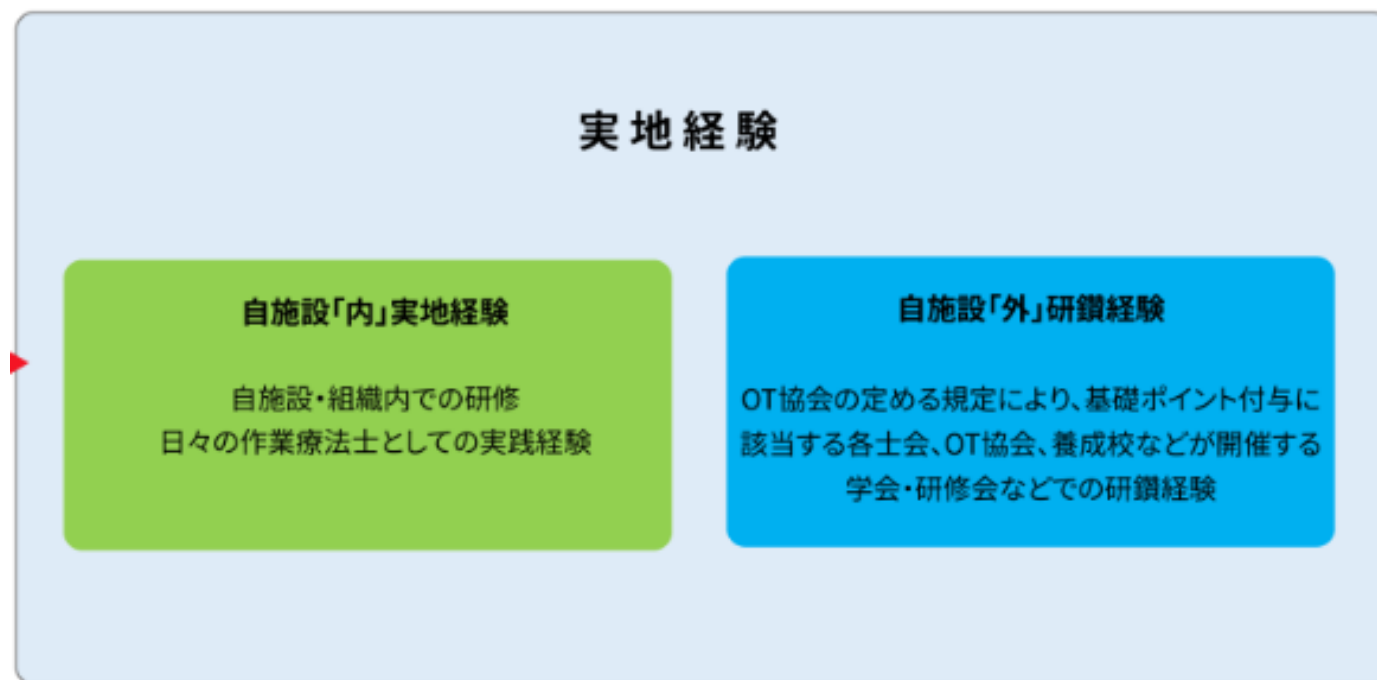


* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、3年をいう
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする



自施設「内」の実地経験と自施設「外」研鑽経験の両方を含め、
現場における作業療法士としての経験そのものです

実地経験 自施設内・外



自施設「内」の実地経験と自施設「外」研鑽経験の両方を含め、
現場における作業療法士としての経験そのものです

様々な研鑽経験

実地経験における自施設「外」研鑽経験

OT協会の定める規定により、基礎ポイント付与に該当
する学会、研修会など(※)

その他

基礎ポイント付与に該当しない
学会、研修会など

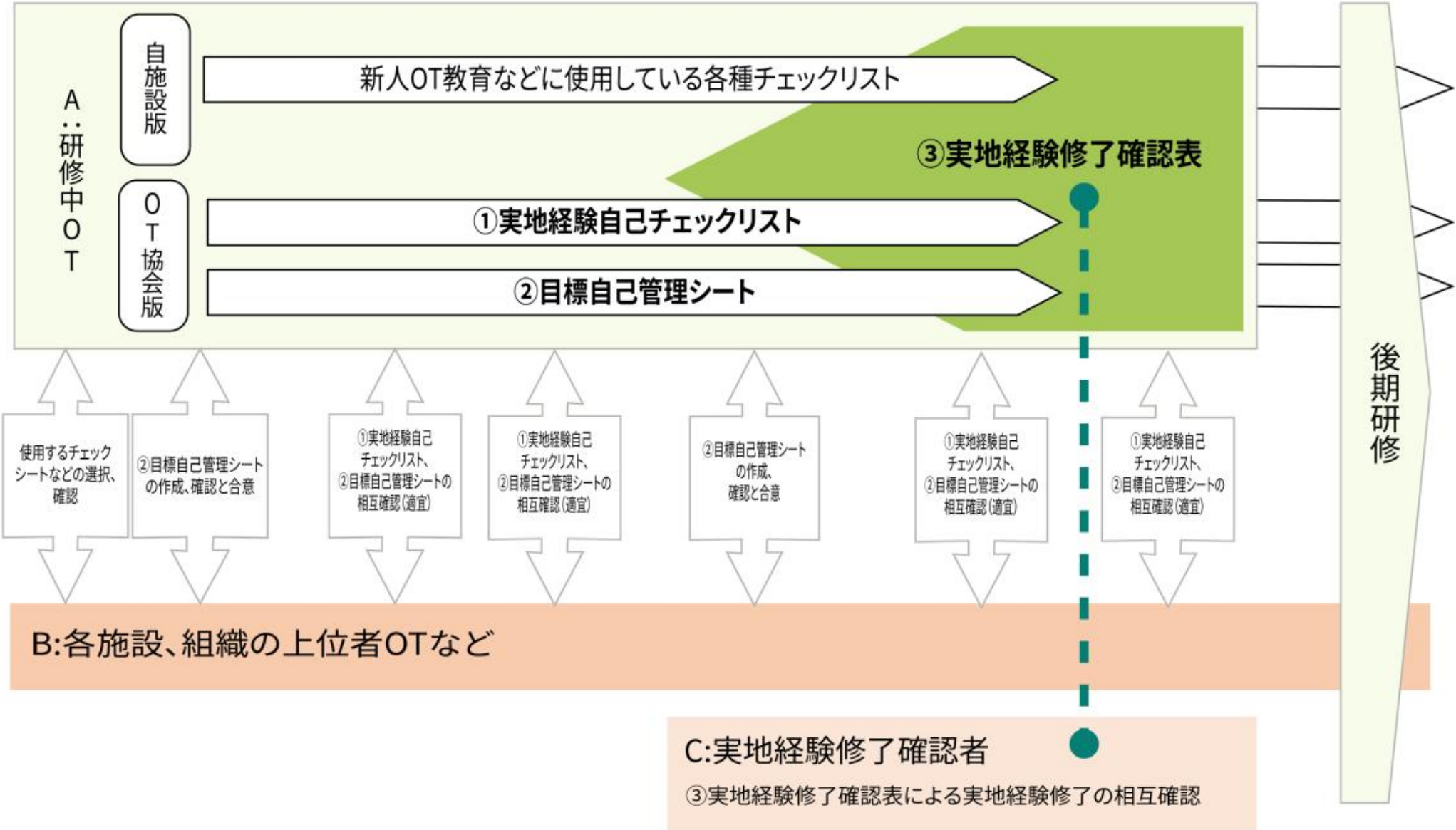
(※) 基礎ポイント付与に該当する学会、研修会であるか否かは、協会ホームページ・生涯教育・基礎ポイントについて
およびSIG等認定一覧から、研修主催団体が登録されていることを確認する (https://www.jaot.or.jp/continuing_education/)

前期実地経験中の自施設「外」研鑽経験と必須回数

実地経験における自施設「外」研鑽経験 (基礎ポイント付与に該当する学会・研修会など)	前期実地経験中の研鑽「必須回数」	
	自施設・組織内に実地経験修了確認者	
	あり	なし
1) 所属する各士会主催・共催の学会や研修会など	1) を2回以上	1) は2回以上
2) 基礎ポイント対象の学会や研修会など		かつ
3) 養成校が開催する研修会など		合計4回以上

実地経験の流れ

前期 実地経験 1年目(会員歴)						前期 実地経験 2年目(会員歴)						3年目
4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4



研修中OT/上位OT/修了確認者

表1 実地経験を構成する3者の役割と前期研修・実地経験修了確認者の要件

実地経験を構成する者		役割
A	研修中OT (前期研修・後期研修中のOT)	・主体的に必要な指導・助言・確認を得て、実地経験の目標を設定 ・主体的に必要な指導・助言・確認を得て、作業療法実践能力を段階的に修得 ・実地経験の目標と進捗を自己管理
B	上位者OT (各施設・組織の管理的立場のOTや 先輩OTなど)	・研修中OTの実地経験の目標について指導・助言・確認し、合意 ・研修中のOTに適切な指導・助言・確認を行い、作業療法実践能力の段階的な修得を支援 ・研修中OTの実地経験の進捗、目標到達を確認、自己管理の促し
C	前期研修・実地経験修了確認者	・研修中OTとともに前期研修・実地経験の修了を確認する

実地経験修了確認者の要件

要件	原則要件	暫定要件 <u>(2030年3月末まで)</u>
所属	研修中の作業療法士と同じ施設・組織に属する <u>日本作業療法士協会員であること</u>	左記と同様
資格	登録作業療法士である者	以下のいずれかの講習・研修を修了し、認定証を提出できる 日本作業療法士会員も可 ①厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会 ②理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会 ③日本作業療法士協会による臨床実習指導者中級・上級研修会

研修中作業療法士/上位者作業療法士 /実地経験修了確認者の方へ

[実地経験マニュアル\(研修中OT/上位者OT/前期研修・実地経験修了確認者 共用マニュアル\) \(PDF\)](#)

[実地経験自己チェックリスト1 ダウンロード\(Excel\)](#)

[実地経験自己チェックリスト2 ダウンロード\(Excel\)](#)

[目標自己管理シートダウンロード\(Excel\)](#)

[実地経験修了確認表ダウンロード\(PDF\)](#)

前期研修修了要件

eラーニング講座 70コンテンツ 修了

前期研修・実地経験 修了確認表 修了

自施設外研鑽 2回または4回以上

前期研修
修了申請

実地経験における自施設「外」研鑽経験 (基礎ポイント付与に該当する学会・研修会など)	前期実地経験中の研鑽「必須回数」	
	自施設・組織内に実地経験修了確認者	
	あり	なし
1) 所属する各士会主催・共催の学会や研修会など	1)を2回以上	1)は2回以上
2) 基礎ポイント対象の学会や研修会など		かつ
3) 養成校が開催する研修会など		合計4回以上

生涯学修制度 後期研修

講義・演習 カリキュラム準備中
実地経験

後期研修の实地経験

登録作業療法士の到達目標である「標準的な作業療法プロセスに従い、独力で作業療法を実践し、後輩や学生を指導できること(ラダーレベル4の実践能力修得)」を目指し、自己チェックリスト・目標自己管理シートを用いて实地経験の進捗を管理します。

なお、証明書類等の提出や申請は不要です。

2025年度に新卒が入られた職場のOT管理者の方へ

- ・新卒作業療法士が実地経験を進められるように、職場の教育体制づくりをお願いいたします。
- ・2026年度には実地経験修了確認を行う必要があります。

2025年度入会された方へ（協会会員番号 100243以降の方）

- ・前期研修（e-ラーニング 70テーマと実地経験）を進めてください。
- ・施設外研修として、県士会の研修も活用ください。

よろしくお願いいたします。